

(令和3年(2021年)3月9日)

令和2年度(2020年度)エゾシカ対策有識者会議  
(第8回エゾシカ管理のあり方検討部会)  
議事録(概要版)

日時 令和3年(2021年)2月10日(水)14時00分～17時15分  
場所 北海道立道民活動センター かでる2.7 1040会議室  
出席者 別添「出席者名簿」のとおり  
議題 北海道エゾシカ管理計画(第6期)の検討について  
(1) 令和2年度第3回エゾシカ生息状況評価部会の概要  
(2) 北海道エゾシカ管理計画(第6期)の方向性  
(3) その他

議 事

(1) 令和2年度第3回エゾシカ生息状況評価部会の概要

ア 事務局(網倉係長)から資料1～6に基づき、令和3年(2021年)2月3日に開催した「令和2年度第3回生息状況評価部会」の概要について説明。

イ 質疑応答等(  ・ 無 )

(事務局(網倉係長)) 生息状況評価部会では、東部地域における新たな管理水準・措置に関して、他地域との違いを打ち出すか否か、両論あったところ。この点について皆様の御意見を伺いたい。

(松浦構成員) 具体的な対策が行われるのであれば、新たな管理水準があったほうが良いと思うが、現段階は大発生水準よりもずっと上のため、もう少し現段階での対策を考えたほうがいいのではないかとの印象もある。

(沖構成員) 仮に今回の考え方が次の5年、10年にあまり関係してこないものとしても、議論の一つの結論として残せるものは残した方が良い。

(2) 北海道エゾシカ管理計画(第6期)の方向性

ア 事務局(寒河江課長補佐、網倉係長及び島本主任)から資料7及び8に基づき、次期計画の構成(事務局案)及び作成のポイントについて説明するとともに、資料9に基づき、猟区制度の取組実績について説明。

イ 質疑応答等(  ・ 無 )

【第1章関連】

(沖構成員) 国有林内における誤射事故を受けて高まったハンターに対する安全対策や安全教育の必要性、新型コロナウイルス感染症によるジビエ産業への影響についても記載してはいかがか。

(宇野部長) 捕獲推進プランと被害防止計画とで乖離があり、捕獲目標が十分に達成できなかったという課題を記載していただきたい。

有効活用を(個体数調整との)両輪として位置付けることには賛成。

(曾我部構成員) 道東地域エゾシカ保護管理計画策定以後、阿寒地域では他地域に先駆けてエゾシカ対策を行った結果、今では森林被害がほとんどないような状況。

このため、阿寒地域における対策を成功例としてしっかり記載していただきたい。

(稲富構成員) 第4期計画の総括終盤で新たに創設された指定管理鳥獣捕獲等事業等の制度について触れているので、これを受けて、第5期計画の総括部分には、指定管理鳥獣捕獲等事業の実績などについて記載してはいかがか。

【第2章関連】

(沖構成員) 南部地域については、管理水準が設定されないまま現在に至っているがこのような状態は今後もしばらく続くという認識でよいか。

(宇野部長) 南部地域は個体数推定が難しく、他地域と同様の管理水準設定は現状不可能である。

(上野主査) 東部地域とその他地域で管理水準・措置を区分する事務局案には賛成。

(宇野部長) 市町村は捕獲目標を毎年のように変更できない。このため、5ヶ年の捕獲推進プランを作成し、中間年で見直すとよいのではないか。

(沖構成員) 現在は、入林禁止区域や有害駆除を行わない市町村にシカが逃げ込んでいる状況。捕獲頭数を上げるためにも逃げ場所をつくらない捕獲の実施が必要。

(宇野部長) 狩猟は狩猟者の意思によるため、メス捕獲率を向上させたいのであれば、個体数調整捕獲での対策を考えるべき。

(上野主査) メスがより多く捕獲される場所や季節などを狩猟者に情報発信すれば、狩猟でもメス捕獲率の向上が期待できるのではないか。

(稲富構成員) 現状、一斉捕獲については市町村等による捕獲事業として位置付けられているが、各機関が連携する捕獲として、新たな項目を立ててもよいのでは。

(松浦構成員) シャープシューティングや誘引狙撃に関する表立った事業は実施されていない印象。次期計画でも、当該手法の推進を図っていくのであれば記載してもよいかと思うが、むしろアニマルウェルフェアにも配慮した技術や意識向上の検討などについて記載してはいかがか。

(宇野部長) 「捕獲体制の構築」や「担い手の確保」に係る記載は、北海道エゾシカ対策推進条例との整合性を図る必要がある。

また、人材育成についてはDCCの活用に触れていただきたい。

(伊吾田部会長) 夜間銃猟やくくりわなに関しては、道がガイドラインを作成しているため、道のガイドラインに従うなどの記載をお願いしたい。

(曾我部構成員) エゾシカ肉処理施設認証については、取得の促進というより、すべての施設に促すなど、より強い表現を検討していただきたい。

(上野主査) 以前まとめた部会の中間報告を再度確認し、漏れがあれば極力反映させていただきたい。

(伊吾田部会長) 国産ジビエ認証より道のエゾシカ認証の方がレベルが高いことなどを含め、エゾシカ認証のアピールをしていただきたい。

(宇野部長) 民有林、道有林や国有林ではこの5年で調査が進み、毎年被害マップを出しているため、この点を林業被害防除対策として反映すべき。

また、「安全の確保」は「その他」の一項目ではなく、別項目として大きく取り上げるべき。

(稲富構成員) 指定管理鳥獣捕獲等事業により市街地近辺での囲いわな捕獲などが進んできているため、「市街地への出没対策」として進展があることをどこかに記載していただきたい。

(沖構成員) 猟区制度がここまで安定してきたのであれば、「猟区制度の活用」部分ではなく、「地域資源・環境教育の有効活用」部分に統合してはいかがか。

### 【第3章関連】

特になし。

#### (3) その他

特になし。

○ 事務局（藤嶋エゾシカ担当課長）が論点の所感を述べ、閉会

以 上

令和2年度（2020年度）エゾシカ対策有識者会議  
（第8回エゾシカ管理のあり方検討部会）  
出席者名簿

日時：令和3年2月10日（水）14:00～

場所：かでの2.7 1040 会議室

1 構成員

酪農学園大学 農食環境学群環境共生学類	准 教 授	伊吾田宏正
道総研 エネルギー・環境・地質研究所	研 究 主 任	稲富 佳洋
北海道鉄砲火薬商組合	組 合 長	沖 慶一郎
エゾシカ食肉事業協同組合	代 表 理 事	曾我部元親
（一社）エゾシカ協会	理 事	松浦友紀子

2 関係機関

道総研 エネルギー・環境・地質研究所	自然環境部長	宇野 裕之
	主 査	上野真由美

3 関係所属

水産林務部林務局森林整備課	主 査	山岡 克年
---------------	-----	-------

4 事務局

環境生活部環境局自然環境課	エゾシカ担当課長	藤嶋 泰道
	課長補佐（エゾシカ対策）	坂村 武
	課長補佐（エゾシカ活用）	寒河江 正
	エゾシカ対策係長	網倉 隆
	主査（エゾシカ）	栗林 稔
	エゾシカ活用係長	山本 千草
	主 任	島本可奈子
	主 事	加藤 葵